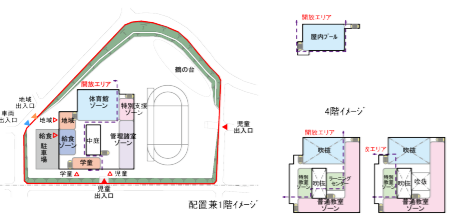


学校施設配置

A-1案		良いところ	<ul style="list-style-type: none"> 校舎が風よけになる（近隣の砂ほこり） ● 地域の出入り口が地域利用施設に近い ● (A案共通) 防災対応として体育館と校舎を切り離し使用できる ① (A案共通) 校舎まで正門からグラウンドを通る距離が長いので不審者が入りにくい
		気になるところ	<ul style="list-style-type: none"> ● 60m以上もある直線廊下が長い ① (A案共通) 鶴の台と分断され遊びにくい、目が行き届かない ● (A案共通) グラウンドが狭く、校舎の裏の面積が多い ① (A案共通) 崖と校舎が近く日影、死角になる ● (A案共通) 給食ゾーンへの車の出入りが離れている ● (A案共通) 校門から昇降口まで遠い
A-2案		良いところ	<ul style="list-style-type: none"> ● 体育館・プールが広い ● 多目的ホールが各階にとれる ● 学童が校門・駐車場に近い ● (A案共通) 防災対応として体育館と校舎を切り離し使用できる ① (A案共通) 校舎まで正門からグラウンドを通る距離が長いので不審者が入りにくい
		気になるところ	<ul style="list-style-type: none"> ① (A案共通) 鶴の台と分断され遊びにくい、目が行き届かない ● (A案共通) グラウンドが狭く、校舎の裏の面積が多い ① (A案共通) 崖と校舎が近く日影、死角になる ● (A案共通) 給食ゾーンへの車の出入りが離れている ● (A案共通) 校門から昇降口まで遠い
B-1案		良いところ	<ul style="list-style-type: none"> ● 日当たりがよい ● 児童と車両動線の明確な分離ができる ● 災害時の避難の点から3階がよい ● プール・体育館が広い ● (B案共通) B案の方が開放面が多い ● (B案共通) 駐車場から給食ゾーンが広いので危なくない ● (B案共通) グラウンドが広く鶴の台と一体化して使いやすく、運動会等の行事の時使いやすい
		気になるところ	<ul style="list-style-type: none"> ● (B案共通) 正門入ってすぐの昇降口は登校時溜まる可能性がある ● (B案共通) 吹抜の安全対策（転落防止）が心配、夏冬の防寒対策、夏の冷房代費用がかかる ● (B案共通) 屋内プールが上階にあるデメリットが気になる、壁の老朽化や耐震性が心配
B-2案		良いところ	<ul style="list-style-type: none"> ● 学童が駐車場近くに配置されているのがよい ● (B案共通) B案の方が開放面が多くよい ● (B案共通) 駐車場から給食ゾーンが広いので危なくない ● (B案共通) グラウンドが広く鶴の台と一体化して使いやすく、運動会等の行事の時も適している
		気になるところ	<ul style="list-style-type: none"> ● 4階に普通教室が気になる ● 災害時4階普通教室からの避難は時間がかかる（将棋倒し） ● (B案共通) 正門入ってすぐの昇降口は登校時溜まる可能性がある ● (B案共通) 吹抜の安全対策（転落防止）が心配、夏冬の防寒対策、夏の冷房代費用がかかる ● (B案共通) 屋内プールが上階にあるデメリットが気になる、壁の老朽化や耐震性が心配
共通		<ul style="list-style-type: none"> ○ 門・アプローチ <ul style="list-style-type: none"> ● つる3小側から通学する児童を考え、南門・正門両方使用すると、広範囲から児童が入りやすい、歩車分離する。 ● 南面の斜面を削り、通学路（正門前）歩道を広げたほうが良い、道をうろうろする児童は危ない ● 正門の位置、正門はもっと西に作るべき ○ 外構・グラウンド <ul style="list-style-type: none"> ● 砂埃対策で、人工芝化 ● グラウンドの広さ・質を大切にしたい ● 鶴の台を活用する ● 車使用の際の分離を徹底する 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 校舎・体育館 <ul style="list-style-type: none"> ● 障害を持った児童のために、EVの設置。バリアフリー化 ● 特別支援教室と職員室が近接配置しているとよい ● 教室の日当たりはよくしたい ● 体育館は1～2階くらいが良い ○ 学童・まちとも <ul style="list-style-type: none"> ● 学童が門側近くにあるとよい（昔は門近くにあった） ○ 地域利用・避難所 <ul style="list-style-type: none"> ● 学校と地域活動の施設を分ける ● 守衛室を設けるべき ● 地域との連携と安心安全な学校生活両方を大切に

地域開放エリア・屋外の環境づくり

<p>【地域開放について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 開放区画について <ul style="list-style-type: none"> ● 屋内プールは一般開放しているのか ● 開放は慎重に。プールはどうか... 体育館、グラウンドくらい ● コミュニティルームはどのような活動ができるのか ● →地域の人の活動場所の常設 ○ セキュリティ <ul style="list-style-type: none"> ● 開放エリアとの境に門を設ける ● 教育の場とコミュニティの場は分ける ○ 運営・管理 <ul style="list-style-type: none"> ● 利用時間帯（平日・休日等）整理が必要 ● 土日の開放で子どものみ（在校生のみ）の利用にしたい ● 管理者が必要、職員のみ負担は避ける ● 学校運営はPTAでよい 	<p>【屋外環境について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 駐車場・車両動線・送迎 <ul style="list-style-type: none"> ● ロータリー、駐車台数の増設 ● PTAのバイクや車の利用 ● 保護者の送迎車の停車スペースは決めたほうが良い ● 送迎自体を禁止するほうが良い ● 車両と児童の動線が交錯しないように車両の侵入区域を明確に。 ○ グラウンド・学童 <ul style="list-style-type: none"> ● 鶴の台を北寄りにするなどして、グラウンドを広くする ● 学童は学校内にいると安心 ○ 門・敷地外 <ul style="list-style-type: none"> ● 南門、通用門は時間で開閉管理する ● 南側の崖を削って歩道を作ってほしい
---	---

避難所機能

<ul style="list-style-type: none"> ○ 避難所施設 <ul style="list-style-type: none"> ● マンホールトイレは本部に近く、犯罪を防ぐ、男女別 ● 学童も使用できると良い ● 飲食物の保存は館内（北側）がよい ● 給食施設の災害時利用または災害時用の給食施設 ○ グラウンド・物資搬入動線・外構 <ul style="list-style-type: none"> ● 校庭（グラウンド）の排水機能の水はけ ● 災害時の物資搬入口の用意 ● 正門はスロープにする ● 物資搬入車両の出入り、体育館への搬入動線の確保 ● 物資の配布の方法をしっかりとる、学校は物資配布の拠点とする ● 崖崩れの心配・20mの巨木の倒木の心配 ○ 発電設備 <ul style="list-style-type: none"> ● 停電時を考慮した発電・蓄電機能 ● 夜間の照明の確保 ● 地震の際の停電時に通信手段としての充電設備を外からできるように ● 停電時にも市とつながる無線設備 ● 外からもアクセスし易いコンセント 	<ul style="list-style-type: none"> ○ バリアフリー・プライベートの確保 <ul style="list-style-type: none"> ● 乳幼児がいる人への配慮、授乳スペース等視界を隔てるもの ● バリアフリー ● 出来る限り簡単な操作で作動する施設・グッズ ● 物資を出しやす出入口 ○ 学校機能と避難所機能の両立・その他 <ul style="list-style-type: none"> ● 学校施設の避難所をどうバランスとるか ● 学校再開がスムーズにできるよう明確に避難所と学校機能を分離 ● 周辺地域を使った防災計画 ● 何がどこにあるかをわかりやすく ● 自宅は安全だが、不安な人への対応 ● 人材の確保：学校と町内会で2分される ● 80歳以上の独居老人が学校に集まる <p>地域ごとに個別避難計画があるため、町内会に出していない人が避難する？ マンホールトイレはいくつくらい設置できるのか？ 地下に倉庫を設けることはできないか？・地下の利用計画など？ 給食室が使える？ 住民への説明をどうするか？</p>
---	---

- 子どもの教育・生活環境
- 放課後活動
- 市民生活の拠点
- 安全性
- 学校の色

鶴川西地区 コンセプト

①教育環境・生活環境づくり

- (1) 多様な学習環境に対応し、主体的・協働的な学習を支える学習空間の形成
- (2) 健やかな生活・交流を支え、一人ひとりが安心して過ごせる施設

②放課後活動の拠点づくり

- (1) 様々な活動に対応するとともに、適切な管理区画による安心して活動できる施設
- (2) 誰もが移動しやすい動線と安全で利用しやすい施設

③市民生活の拠点づくり

- (1) 地域と学校の連携・協働を支え、新たな地域拠点となる学校
- (2) 適切な開放区画や開放諸室の集約による地域利用を活性化する施設

④安心安全な施設づくり

- (1) 日常の安全・防犯対策を行うとともに、誰にでも優しく使いやすい施設
- (2) 災害に強く、避難施設機能が充実した施設

⑤地域の特性を活かした学校づくり

- (1) 地域に親しまれ、愛着を育む学校
- (2) 両校の特色ある活動を継承できる環境